



品川区立三木小学校

令和8年度 学校経営方針

令和8年4月
校長 高田 大

1. 基本方針

(1) 教育目標の達成

本校の教育目標「自ら学ぶ子 心豊かな子 健康な子」の育成に向け、その具体的な実現を図る。

◇ 自ら学ぶ子

学習意欲の向上、学習習慣の定着、学習環境の整備、知的好奇心の喚起

◇ 心豊かな子

道徳心の涵養、自尊感情、自己肯定感、豊かな人権感覚の醸成、社会性の育成、他者理解

◇ 健康な子

食育・体育の充実、施設の安全、自己実現・目標の達成

(2) 教育目標達成のための重点方針

○ウェルビーイング教育の具現化と充実（令和8年度品川区ウェルビーイング教育推進校）

- ・ウェルビーイングの考えそのものを学ぶ授業（ターゲット型）、教科等の指導にウェルビーイングの考えを取り入れる授業（アレンジ型）の実践に取り組む。
- ・校内研究において、教科指導におけるウェルビーイングのあり方、教科指導を通じたウェルビーイングの向上についても追究する。
- ・児童のレジリエンス（精神的回復力）に着目し、ウェルビーイングとの相乗効果をねらう。

○生徒指導提要の4つの視点を意識した教育活動

- ・自己存在感の感受…賞賛や承認等の認められている実感、居場所を感じられる環境づくり、役割を通じた自己有用感
- ・共感的な人間関係の育成…信頼し合える友達・教師関係、受容と共感、支え合う人間関係
- ・自己決定の場の提供…自ら考え選択・決定する機会、主体性を引き出す関わり
- ・安全・安心な風土の醸成…いじめや差別を許さないルールが明確な教室環境、失敗してもやり直せる・安心して意見が言える雰囲気（レジリエンスの育成）。いじめ予防授業「トリプルチェンジ」と各種調査の確実な実施。

○探究的な学習の実施・実現

- ・市民科一貫プラン（年35時間）における探究的な学習について実践を通しブラッシュアップする。
- ・地域を題材とし、地域を学ぶ探究的学習に取り組み、課題を設定し追求する力を育む。

○地域に生きる人材の育成

- ・三木小コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、同窓会、町会、地域、PTAとの連携を生かす。
- ・地域の教育資源や学習環境を生かした教育活動を、教育課程に位置づけて推進していく。
- ・低学年で地域の様子、中～高学年で地域の取組や防災についてつながりをもって主体的に学べるようにする。

2. 重点化する取組み ※【学】【心】【健】は教育目標に対応

(1) 多面的な児童理解を図り、組織的な指導を行う【学】【心】【健】

- 学級担任、専科教員、特別支援教室、各種支援員、保護者、すまいるスクール、関連諸機関等、各方面からの情報を収集して、表面的な児童の行動だけでなくその背景の理解に努める。
- 毎週の生活指導連絡会、定期的な特別支援教育校内委員会や学校いじめ対策委員会及び不登校対策委員会で児童に関する情報を共有し、組織的に対応する。

(2) 指導形態や指導方法の工夫を図り、確かな学力を身につけさせる【学】

- 習熟度別少人数指導 ○教科担任制 ○三木タイム ○学校図書館の活用
- サントレ（サイエンストレーニング） ○古典の暗唱 ○1人1台タブレット端末の活用
- 英語科でのHRT（学級担任）とJTE（3～6年）・ALT（1，2年）のTTによる指導

(3) 豊かな人間性・社会性を育てる【学】【心】

- 「トリプルチェンジ」の指導内容を元に、いじめを許さない心と知識や考え方、対処できる行動力、学校風土を自ら高める意欲を育む。
- キャリアパスポートを活用し、目標—実践—振り返りのサイクルを習慣化する。
- 全教育活動を通して人権感覚を醸成する。「人権週間」に向けた標語・ポスターの取組を行う。
- 市民科を中心に、全教育活動を通して集団生活に必要な規範意識を醸成する。
- 学習・生活あらゆる場において、自分の思いを言語化し、言葉で伝える力を身に付けさせる。
- 「なかよし班」や「保育園児との交流」を通じて他者への思いやりの心を育む。
- 地域や町会の催しへの参加を奨励し、地域社会の一員としての自覚を促す。

(4) 健康な生活を送る態度を育む【健】

- 運動遊び、体育の授業、体育集会、体力向上の各取組（ワニニッツエクササイズ、チームジャンプ、三木走等）等を通して、進んで運動に親しみ健康増進に励む児童を育てる。
- 学校生活全般にわたって姿勢指導を行い（ストレッチ、引き座、立腰姿勢）、健康の保持と学習への集中に寄与する。
- 食に対する興味関心を高め、バランスのよい食事をしようとする態度を養うとともに、SDGsの視点から残菜を少なくしようとする風土を醸成する。

(5) 生活指導の充実【学】【心】【健】

- 「良い習慣」を身に付けさせる。
挨拶・返事、言葉遣い、姿勢保持（ストレッチ・引き座・立腰姿勢）、集団行動（整列・移動）、時間遵守（登校、チャイム）、通学帽の着用、整理整頓、交通安全（ヘルメット着用）、読書、家庭学習 等
- すまいるスクールと連携し、情報を共有して学校と共に児童理解と健全育成にあたる。
- 学校生活及び校外生活における安全を指導する（自転車利用時のヘルメット、まもるっちの携帯）
- 「品川区いじめ防止対策推進基本方針」に則った取組を確実に実施する。
 - ・「トリプルチェンジ」の授業、毎日のデイケン、いじめDアンケート、学校風土調査
 - ・「いじめをしない、させない、許さない」毅然とした指導を行う
 - ・いじめの定義に基づいた聞き取り、指導を行い、指導した案件を確実に報告に上げる。

(6) 児童の実態に応じた支援を組織的、段階的に展開する。【学】【心】

- レベル1（学級での支援）、レベル2（人材を活用した支援）、レベル3（特別支援教室の利用）の支援の必要性について、校内委員会において組織的に判断し、適切に実施する。
- 保護者との連絡を密にし、必要に応じて各種心理専門職と連携して、児童の困り感についての共通理解を図り、共感的理解に基づいた支援を進める。
- 特別支援教室の役割と意義の啓発に努める（児童、保護者、教員）。
- 特別支援教室における自立活動では、児童が所属学級で安心して生活できることを目指す。そのために学級担任、特別支援教室担当が連携して方針とそれぞれの指導内容を共有し、特別支援教室での指導内容とその成果を各教室での具体的な指導に生かせるようにする。

(7) 品川コミュニティ・スクールの取り組みを推進し、家庭・地域等との連携を深める【学】【心】

- 地域参加型行事の工夫や地域ボランティアの活用を推進し、保護者・地域との協力・連携を深める
こいのぼりあげ／地域参加型運動会／夏休み体験クラブ講師／三木未来塾講師／
- 地域等と連携した取組・行事に向けては、「学校（学年）が、教育内容に基づいて人材や場のコーディネートを学校地域コーディネーターに依頼し、実施計画を立てる」流れを基本とする。
- ホームページや学校便り、掲示板等で学校からの情報発信を工夫し、充実に努める。
- 地域の教育財産を生かした学習を開発し、教育課程に位置づける。
- 83運動、同窓会、登校時の地域の見守りの方等地域の方との関わりを意識させ、地域の一員としての自覚を育てる。

3. 教職員としての職務姿勢

(1) 教育課程を適切に管理する

- 週案簿を用いて教育内容と実施時数を逐次管理する。
- 計画及び実施後の修正を記録し、計画の時点（前週末～週頭）に管理職の点検を受ける。
- 「三木タイム」を15分（1/3単位時間）の指導時数として計上し、計画的に実施する。

(2) 安全・安心な校内環境をつくる。

- 定期的な校内施設安全点検と改善を確実に行う。
- 点検外で明らかになった破損等は管理職に報告し、随時対応する。

(3) 事件・事故の際には常に最悪を想定して、具体的な対策を実行する。

- 素早い対応と社会状況に敏感な安全対策を行い、職員に安全管理に対する強い意識を持たせる。
- 保護者に対する説明責任を果たし、学校の対応について理解を得られるよう努める。
- 地域避難所としての役割を明確にし、避難所としての機能の整備・充実に努める。

(4) 職員間、及び職域間の連携を向上させる。

- 職員間の親和的コミュニケーションを大事にし、働きやすい温かな職場にする
「笑顔は無言の承認、機嫌は主体性への架け橋」（川上康則先生）
- 事務室、主事室をはじめ、SSS、各種支援職との日常的な連携及びコミュニケーションを図り、計画的かつ効率的にそれぞれの職務にあたるようにする。
- 養護教諭、栄養職員、調理員と連絡を密にして、品川区の基準に基づいた食物アレルギー対応に瑕疵の無いようにすると共に、残菜を少なくするよう給食指導に力を注ぐ。

(5) 働き方ルネサンスを推進する

- 月あたりの超過勤務時間45時間未満を目途に業務量を制御し、各職員のQOLの向上を図る。
- 行事や会議の内容・方法を精選する。M365、Teams、共有フォルダ、ロイロノート、紙面配布等を活用して方針や情報の共有を図り、教材研究や学年会を行う時間を確保する。

(6) 服務事故の発生を防止する

- 服務事故防止研修を確実に行之、服務事故についての知識を深め、予防意識を高める。
- 品川区の情報管理規定に基づき、児童・保護者・教職員の個人情報の保護を徹底する。
- 体罰・不適切指導をしない・起こさない風土を全教職員で醸成する。
- 服務事故に相当する事態や疑われる事態があった場合、即時管理職に報告する。

4. 実現したい学校像

- ◇ 児童の意欲が喚起され、自ら生き生きと学ぶ学校
 - ・ 児童が安心して通える安全な学校
 - ・ 学習習慣、生活習慣が身につく、達成感が得られ自己肯定感が高まる学校
 - ・ 教職員、保護者、地域の方々、上級生等、多くの人生の先輩から学べる学校
- ◇ 教職員の活力に満ち溢れている学校
 - ・ 教職員が生き生きと働き、誇りに思える学校
 - ・ 教職員が児童の変化を見逃さず、親身になって寄り添う学校
 - ・ 教職員各々が職責に対して率先垂範し、互いに学び合う風土のある学校
- ◇ 地域の拠点として愛される学校
 - ・ 開かれた学校経営を行い、地域とのつながりを深くもち続ける学校
 - ・ 児童がふるさとを愛し、地域の取組に積極的に参加し協力する心を育む学校
 - ・ 卒業生や保護者から卒業後も愛され続ける学校